

I. 公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況と実態

- ・「レディースi」や「レディース21」も「たんば田園交響ホール」に付属した形で運営されている。

○ 運営自立型

- ・「ステージオペレータークラブ(たんば田園交響ホール)」、「舞台研究会うらかた(喜多方プラザ文化センター)」は、ホール主導で始まってはいるものの、任意団体として自立しており、館とは委託契約を結んでいる。導入の経緯は劇場・ホール主導型だが、運営の現状から言えば運営自立型と言える。「ステージオペレータークラブ」は、ホールの自主事業、貸し館事業の際のウラ方業務だけでなく、ビデオ録画などの業務も受託している。
- ・前述のとおり、「能登演劇堂振興協会」は民間主導で設立され、中島町内の各種団体の代表者を中心とした任意団体。現在の会員の所属は、民間団体9名、公的団体6名、社会教育団体5名、行政2名、民間個人3名という構成で、民間・各種団体・行政が一体となった、いわば“町ぐるみ”の運営である。
- ・「武生国際音楽祭推進会議」は第1回目音楽祭開催の際に自治体の要請で集ったメンバーを中心とする任意団体である。「武生」の場合、音楽祭自体は厳密には「武生市文化センター」の自主事業ではなく、独立した組織が開催する事業のひとつという位置づけで、センターとは一定の距離を置いている。

③ ボランティア組織の運営

○ 運営予算

組織が劇場・ホール付属型である場合には、基本的な運営には劇場・ホール側の予算が充当されている。

一方、ボランティア団体が任意団体として独自に運営されている場合には、おのおの下記のような運営方法が採られている。ただし、いずれの場合も事務局や活動の拠点は当該劇場・ホール内に置かれている場合がほとんどである。

- ・「喜多方プラザ文化センター」の「舞台研究会うらかた」は、おもに会費、喜多方プラザからの委託料、手数料によって運営されている。
- ・「たんば田園交響ホール」の「ステージオペレータークラブ」も規約が制定されており、会員は年間6,000円(月500円)の会費を納めている。会の運営は会費の他、ホールの自主事業、貸し館事業の際のウラ方業務、その他の受託事業、および町からの補助金によって主に賄われている。メンバーの出役に対する費用弁償は、各事業の主催者から一旦「オペレータークラブ」に支払われ、そこから各メンバーに“費用弁償費”として支払われている。その他、メンバーの技術研修や資格取得のためにも、会から補助が出る仕組みになっている。
- ・同じく任意団体である「能登演劇堂振興協会」は、町からの委託料、賛助会員による賛助金、広告料およびその他の収入で運営されている。

- ・「武生国際音楽祭推進会議」では、ボランティア団体の会費(年間5,000円)を設定している。これは事務局の運営経費で、音楽祭の会計とは分けて経費処理されている。

● ボランティア・コーディネーター

ボランティア参加者と劇場・ホール側のスタッフをつなぐ、あるいはボランティア内部の調整をするボランティア・コーディネーターの状況は下記のとおりである。

- ・「舞台研究会うらかた(喜多方プラザ文化センター)」では、舞台、音響、照明業務がおのおの部門別になっており、各部の部長が部内のとりまとめ役になっている。ホール側には技術スタッフが3名おり、彼らがウラ方業務の調整を行う。
- ・「いまだて芸術館」、「たんば田園交響ホール」および「春日市ふれあい文化センター」では、いずれもホール側の担当者がボランティアを取りまとめており、その担当者がボランティア運営のキーパーソンになっている。ただし、「いまだて」では企画プロデューサーが当該企画を実際に運営するところまでの責任者に位置づけられており、「春日市」では“キャプテン”と呼ばれている人がボランティア間の連絡調整を行っている。
- ・「能登演劇堂振興協会」は、事務局を町の文化振興課担当者が兼務するかたちになっている。協会の会長は、10年以上前に無名塾との個人的なつながりを持っていて、演劇堂建設のため中心的な役割を果たした人物で、現在も主体的に関与している。
- ・「武生国際音楽祭推進会議」では、事務局が武生市文化センター内に設置されているが、専従スタッフはいない。事務局長がとりまとめ役になっている。専任事務局員を雇ったこともあるが、常駐スタッフがセンターにいと、従来ボランティアで行ってきた仕事をその人に依存してしまうようになり、結局はうまく機能しなかった。
- ・いわゆる“ボランティア・コーディネーター”が専従のスタッフとして置かれているのは、調査事例のなかでは「大阪府立青少年会館・プラネット・ステーション」のみである。高校生・大学生中心の「いべんとスタッフ」の活動は夕方以降が主になるのに対し、府立青少年会館職員の勤務時間は必ずしもそうでないことなどから、双方のコミュニケーションを密にするために“制作チーフ”という肩書きでコーディネーターを置き、効果的に機能している。

④ ボランティアの業務の内容

次にボランティアの業務内容をみると、図表 I -10のように、企画制作から事務補助まで多様な内容になっており、ホール・劇場で行われている業務のほぼ全般にわたってボランティアが関わっていることがわかる。また、181名の回答者による複数回答が計397件となっていることから、一人のボランティアが平均して二種類